

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生看護学実習Ⅱ (市町村)		選択	4	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
伊丹 幸子	304	s.itami	月曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	地域住民を対象とした看護、学校集団を対象とした看護、就業者集団を対象とした看護を看護が展開される場で実習し、公衆衛生看護の実践に必要な基礎的能力を修得する。特に地域住民を対象とした市町村保健センターにおける実習では、実習前に学生が受け持つ地域の保健衛生福祉統計等のデータから、学生個人が課題を明らかにし、家庭訪問、保健事業、地区活動等に参加するなかで地域アセスメントを行い、地域住民の健康を保持増進のための基礎的実践能力を市町村実習、学内実習、遠隔授業で修得する。				
学習上の助言	地域におけるさまざまな保健師活動の実際を通して、公衆衛生看護の機能や役割を検討する。また、保健師の実践活動を実地に体験することを通して、自らの看護学への課題を明らかにしてほしい。				
教科書	・最新 公衆衛生看護学 第3版/2019年版 編:宮崎美砂子 他/日本看護協会出版会				
参考書	・公衆衛生看護学 第2版/編:上野昌江、和泉京子/中央法規 ・厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021/厚生労働統計協会 ・新版 保健師業務要覧 第3版/2018/編:井伊久美子ほか/日本看護協会出版				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	公衆衛生看護が展開される対象と場の特徴を理解する	NS(5)			
②	地域/学校集団/産業分野の健康課題を明らかにするための地域アセスメントが実施できる	NS(4)			
③	市町村の機能と組織体系、保健活動の法的根拠が理解できる	NS(2)			
④	地域の健康レベルを向上させるための事業や社会資源の開発や施策化を進める保健師の役割について理解できる	NS(1)～(5)			
授 業 計 画					
1 実習時期と期間 6月～7月の4週間					
2 実習施設 市町村実習：都留市、甲州市 学校保健：ふじざくら特別支援学校 産業保健：山梨産業保健総合支援センター、牧野フライス					
3 実習の展開 (予定)					
第1日<学内>	公衆衛生看護学実習全体オリエンテーション ・学校保健実習、産業保健実習 ・市町村実習	学校保健オリエンテーション ・実習支援学校についての事前学習 ・実習準備			
第2日<学校>	学校保健実習学校保健実習				
第3日<学内>	学校保健実習まとめ	産業保健実習オリエンテーション			
第4日<産業>	産業保健実習①				
第5日<産業>	産業保健実習②				
第6日<学内>	市町村実習オリエンテーション	地域アセスメント資料分析			
第7～10日<市町村>	・市町村職員によるオリエンテーション ・市の概要、保健福祉行政の説明 ・保健師活動方針説明	地区踏査 家庭訪問 (母子/成人/高齢者)の事例説明			
第11、12日<市町村>	保健事業への参加 (母子保健、介護予防地域づくり等)				
第13、14日<市町村>	地区を支える場所への訪問 (介護予防ボランティア等)	同行家庭訪問 (母子/成人/高齢者)			
第15日<市町村>	地域アセスメントの中間報告	参加保健事業カンファレンス			
第16日<市町村>	健康教育企画案作成	健康教育企画案作成			
第17日<市町村>	健康教育媒体作成	健康教育媒体作成			
第18日<市町村>	健康教育発表	健康教育発表			
第19日<学内>	実習のまとめ	実習のまとめ			
第20日<学内>	実習のまとめ発表会	記録の整理、振り返り			
*あくまでも予定である。状況によって変化する。					

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

学習内容・学習時間 (時間)							
公衆衛生看護学の統合した科目です。これまでの学習を復習し臨むことが必要です。住民の健康を守る身近な行政機関である市町村の保健活動について、事前に実習先の市町村のホームページにある健康増進計画又は保健福祉計画を読み把握してください。また、疑問点を整理してください。学校実習は、支援学校の役割、活動等を理解し、公衆衛生看護活動の展開について予習が必要です。また、企業実習では、企業が取り組む従業員の健康管理や維持増進、地域保健との連携についての把握が必要です。 必要時間： 20時間							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	30	30	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	10	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	10	10	0	0	20
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	10	10	30
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	日々の記録、カンファレンスでの記録を評価する。				コメントを記入して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①	✓	まとめのグループ発表の内容を評価する。				発表時、助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
ポートフォリオ	①	✓	記録のまとめ方を評価する。わかりやすく正確に作成すること。				内容や整理状況を確認して、必要時、個別にコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
その他	①	✓	出席日数と実習に取り組む態度、グループで行う発表等を総合的に評価する。				欠席及び実習態度は減点の対象となる。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
他 担 当 教 員							
教員の実務経験		保健師として35年勤務し、県職保健師として県庁、保健所、児童相談所、市町村保健師業務を経験している。					
実践的授業の内容		担当教員が保健所・市町村における行政保健師活動の経験を元に、保健医療福祉行政のあり方や公衆衛生看護管理のあり方を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指す。					
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 ・Teamsを使った同双方向型授業に実施もあるため、通信容量無制限のWifi環境を推奨する。 ・本科目は、保健師課程選抜者のみ履修可能である。 					